

19  
SAT

入選者会場批評会（絵画部・版画部）

4月19日（土）13:00～15:00 参加無料 当日会場にて受け付けます。

授賞式・パーティー

4月19日（土）15:00～17:30  
国立新美術館 3F 講堂 参加無料

Reception

Recture



講演会 「描くことと書くことと、について」

講師：山口 諤司氏（平成国際大学新学部設置準備室顧問）

何をどう描くか、どう書くか、それは自由です。しかし我々は本当に「自由」に描く（書く）力を得ることはなかなかできません。明治の文豪夏目漱石は、印象派の絵からの影響と、漢詩の世界の影響、そして大患に遭ったことで、漱石なりの「自由」を獲得しました。はたして自由な表現とは何か、自由な境地とは何か。明治以降の文学と絵画の関わりからお話しさせていただきます。

4月20日（日）開場 13:30 開演 14:00～15:30 国立新美術館 3F 講堂 入場無料

20  
SUN

26  
SAT

春陽展アートツアー

4月26日（土）13:00～14:00 2F 会場入口集合  
参加無料、ポストカードプレゼント

一般の方を対象にした、絵画・版画鑑賞ツアーです。  
春陽会会員の解説を受けながらアートの新たな楽しみ方を発見していただけます。

Art Tour

企画展示

Exhibits

■チャリティー展示——— 2F 休憩室

会員有志による作品の展示、チャリティー販売を行います。  
収益は社会福祉法人 NHK 厚生文化事業団、日本赤十字社を通じて、社会福祉事業、自然災害復興支援のために寄附します。

■春陽会研究会の紹介——— 2F 休憩室

春陽会では全国に研究会を設置し、絵画と版画の啓蒙及び研究活動を行っています。このコーナーではそれぞれの地方研究会をご紹介します。

■特別展示——— 3F 展示室

「三井永一とリトグラフ」

三井永一（1920～2013）は18歳で春陽展初入選の後、1953年絵画部、1964年版画部会員に推挙され、洋画家、版画家、挿絵画家、ガラス絵作家として活躍しました。本展ではその多彩な画業の中からリトグラフを中心に作品、資料などを展示します。



春陽会について（春陽会小史）

春陽会は1922年（大正11年）、小杉未醒、足立源一郎、倉田白羊、長谷川昇、森田恒友、山本鼎、梅原龍三郎、さらに客員として石井鶴三、今関啓司、岸田劉生、木村荘八、中川一政、萬鉄五郎が参加して、院展洋画部と草土社が合流した団体として創立されました。翌1923年（大正12年）に第1回展が開催され、その後、加山四郎、岡鹿之助、三雲祥之助、高田力蔵等フランス帰朝組に続いて、中谷泰、南大路一、また版画部には長谷川潔、駒井哲郎、清宮質文等、日本美術史に名を刻む多くの画家たちが参加しています。

本会は、戦時中は展覧会の一時中断を余儀なくされましたが、日本の風土と伝統に根ざした個性尊重の「各人主義」に基づく創設以来の理念を確実に受け継ぎながら、藤井令太郎、田中岑、五味秀夫等、新しい才能や感性を受け入れてきました。



現在は絵画部約200名、版画部70名の会員を擁し、全会員による審査、運営により、新しい美術の可能性を模索するべく研鑽を重ねています。また、次世代育成のために、創立以来の伝統である研究会活動の拡充にも取り組み、更なる美術の発展と文化への貢献を目指しています。

春陽会発会当日（大正11年1月11日）

春陽会100年史「春陽会史料館」（WEBアーカイブ）

<http://shunyo-archive.com/>

日本美術史の研究に資する目的のため、春陽会が所蔵する創立から現代までのあらゆる記録や資料をデータベースとして公開します。出品目録、印刷・出版物、新聞・雑誌等の掲載記事、音声、写真、動画など、未来に残すべき貴重な資料をデジタル化し、いつでもどこでも検索できるシステムとして構築しました。日本の美術団体としては初めての画期的な試みです。

春陽会事務所（月・水・金 10:00～17:00）  
〒102-0085 千代田区六番町1 番町一番館  
TEL&FAX 03-6380-9145  
shunyo-kai@shunyo-kai.or.jp



春陽会公式 HP



春陽会史料館